

“好きなことに夢中になると…”

先日までパリでパラリンピックが行われていました。男子車いすテニスでは、小田選手がシングルスで金メダルを獲得しました。小田選手は、小学校（9歳）のときに骨肉腫を発症、太ももの骨の一部を切断、大好きだったサッカーをあきらめ、入院中に車いすテニスのレジェンド国枝選手のプレーの映像を見て、10歳から車いすテニスを始めたそうです。途中、癌が肺に転移し、抗がん剤治療も乗り越えての今回の金メダルでした。自分は車いすテニスでヒーローになるという目標を達成した瞬間でした。

以前、硬式テニス部の顧問をしていたころ、1年生に目の調子があまり良くない生徒が入部してきました。1mぐらい離れたところからテニスボールを軽く投げても捕れないどころか手にも当たらないような子でした。自分としては、ボール競技は危険では？と思っていたのですが、本人がどうしてもテニスをやりたいと言い張っていたので、保護者もテニスをやることを認めたそうです。「配慮はするけど、特別扱いはしない」ということで入部することになりました。1年生の頃は、飛んできたボールがラケットにあたることはほとんどありませんでした。それどころかサーブでもラケットにあたることも稀でした。2年生になり、サーブでの空振りは、ほぼなくなり、飛んできたボールもラケットにあたる回数が増えてきました。そして、3年生になったときには、何と練習試合で相手から1ゲーム取るようになりました。そのころ病院で保護者の方が「この子に何をしたんですか？」と言われたそうです。保護者の方は、びっくりして「何かありましたか？」と恐る恐る聞いたそうです。

「いや、この子の目がすごくよくなっています。信じられない。」と言われたそうです。テニスが好きで毎日必死でボールを追いかけて走り、ラケットに当てようと集中してボールを目で追いかけて練習していたことが、この子の目を飛躍的によくしたようです。

人は、好きなことに夢中になっているとき、医者や周りの人がびっくりするような成長を見せることがあります。自分の卒業生にも中学時代、全く勉強をしない、学校は休みがち、学校に来ると問題を起こす・・・というような子が会社を経営し、多くの従業員を雇い、頑張っていたりします。その子に聞くと、中学時代勉強していなかったから最初は苦労したけど周りの人に聞きながら、何とかやってきました。仕事は好きだし、楽しいからそれを続けるために今も勉強しています。そうしないと、仕事が続けられないどころか従業員が困ってしまうと笑顔で応えていました。皆さんの中にもうすでに好きなものを見つけたという人もこれからという人もいます。やりたいこと、好きなことに出会えた時、皆さんには全力でそれに向かう人になって欲しいと思っています。スポーツでも趣味でも仕事でもなんでもいいです。好きなものが見つければ、それだけでいろいろなことに対して積極的になり、自分自身を大きく成長させます。皆さんの将来、大きく成長した姿を楽しみにしています。